

vol.90

都城市立美術館
Miyakonojo City Museum of Art

本市出身の医師で、地域医療に尽力する一方、二科展などで高く評価された写真家・飯田長雄（1925-2011）。市美展の審査員を務めた秋山庄太郎や植田正治らとも交流があり、都城地域の写真文化の発展に貢献しました。

霧島盆地の夕暮れから夜へ移ろう瞬間を捉えた本作。高千穂峰が水平線上に配され、街並みを見下ろす構図から、高所で撮影されたと推測できます。

飯田は「今はビルの向こうにしか霧島山は見ることができなくなった」と本作の解説に記し、時代と共に変わる街並みと、永遠に変わらぬ霧島山の姿を詩情的な光の中で対比させています。

※本作は、10月25日(土)～12月7日(日)に開催する特別展「植田正治 写真することがとても楽しい」展で展示予定

◎問い合わせ 市立美術館 ☎25-1447

「盆地夕景」
飯田 長雄 作（1984年）

Corporate Power

都城をけん引する企業を紹介

企業の力
Vol.61

有限会社南建興業

☎ 64-2287

園芸から建設まで幅広く使われるボラ土は、縁の下の力持ち。山田町山田「軽石」に拠点を置く有限会社南建興業は、この地域特有の資源であるボラ土（軽石）の採掘から販売までを市内で唯一、一貫して行う企業です。

創業者の南曲久洋会長は製茶業の傍らボラ土の運搬業を行う中でボラ土に大きな可能性を見いだし、平成16年に一念発起して起業。11年前に東京から帰郷した息子の誠さんが3年前に社長に就任し、妻の瑞穂さんが専務取締役として支えています。

「都城産ボラ土の強みは、強度と排水性・保水性の優れたバランス。実は、さまざまな分野で活躍しているんですよ」と瑞穂さんは語ります。野菜や花の栽培だけでなく、農地の暗渠排水やスポーツ施設の資材にも活用されている同社のボラ土。霧島酒造スポーツランド都城の芝生エリアにも導入され、その水はけの良さに一役買っています。

社員13人のうち半数が60歳以上を占める同社。「薄利多売ではなく付加価値を高め、若い人材を雇用できる体制を整えたい」と瑞穂さんは未来を見据えます。同社は、今年からふるさと納税返礼品の提供にも挑戦。また、宮崎大学と共同で水害リスク軽減が期待できる透水性排水ブロックを開発するなど、ボラ土の可能性を広げる挑戦を続けています。「ボロボロの土と思われるボラ土は、日本が誇る資源なんですよ」と語る瑞穂さんは、ボラ土が秘める無限の可能性に目を輝かせていました。

ふるさと納税返礼品「日向かる石」

History exploration |

歴史探訪！

本市第1号の剥片尖頭器（王子山遺跡）

王子山遺跡は、山之口町花木の山之口小学校付近に位置する遺跡です。平成22年に行った発掘調査では、約1万3千年前の縄文時代草創期の土器や石器が出土。また、炭化したツルボやツルマメの圧痕も見つかっていて、これらは国内で最も古い発見事例の1つです。

縄文時代よりもさらに古い旧石器時代の遺物も数点出土している本遺跡。そのうちの1つが「剥片尖頭器」と呼ばれるナイフのような形状に加工された石器です。本石器は、木の棒の先端にくくりつけ、槍のように使用されていたと考えられています。市内で剥片尖頭器が出土したのは本調査が初めてで、さらには市内で見つかった石器の中で最も古い石器でもあることから、大変貴重な遺物の1つと言えます。

本市ではるか昔から人々の生活が営まれていたことを私たちに教えてくれる遺物の数々。当時の人たちがどのような生活を送っていたのか、思いをはせてみませんか。

※縄文時代の土器や石器など、王子山遺跡の出土品の一部は、都城歴史資料館に展示中

◎問い合わせ 文化財課 ☎23-9547

剥片尖頭器

使用イメージ

都城島津伝承館
だより

庄内地理志巻五
相久の怨霊譚と兼喜神社

すけひさ おんりょうたん けんき
相久の怨霊譚と兼喜神社

近世都城領内には、島津総鎮守・神柱宮など数百の神社があり、元禄11(1698)年頃に記録された「都城領内神社由調帳写」には、霊社として兼喜大明神と志和池水流村の荒人三社大明神が記されています。

兼喜大明神は、第10代時久の長男・相久を祀るために創建。武勇に優れた相久は、肝付氏や大友氏との戦いで戦功を挙げましたが、家臣に陥れられて安永金石城（現在の庄内町）で自刃しました。本史料には、相久の霊を鎮めるために建立された若宮八幡宮が兼喜大明神となるまでの出来事が記されています。それによると、北郷氏は、文禄4（1595）年に祁答院（現在の鹿児島県薩摩川内市）に所替え。慶長5（1600）年に遷住した後も相久の靈魂の恨みはやまず怪異が続いたことから、北郷家当主らは、神職・修験者を度々上京させ、室町時代末期に神道流派を興した吉田家から神号を授かり、霊八幡宮、兼喜明神、兼喜大明神と改号を重ねていきました。

※本史料は、10月11日(土)から11月24日(月)まで開催する特別展「怪異の受容と南九州」で展示予定

◎問い合わせ 都城島津邸 ☎23-2116

今月の読者プレゼント

リンクルショットメディカルセラムN(1週間分)
+肌検査+フェイシャルケア+メーク 5人
プレゼント提供事業者
POLA THE BEAUTY年見店(年見町32-2) ☎22-9336

エイジングケアや美白の分野で最先端の研究を行うPOLA。同店では、細胞や遺伝子レベルで肌を分析し、インナーケアも含めたあなただけのお手入を提案。広々とした空間の中、最高のおもてなしで癒やされませんか。

プレゼントの応募方法

はがきに住所、氏名、電話番号と、10月号を読んだ感想などを書いて〒885-8555まで。
応募者の中から抽選でプレゼントを差し上げます。

◎応募締め切り 10月31日(金) 当日消印有効
◎当選者発表 本紙12月号
◎8月号当選者 あきぐもさん ほか9人
◎8月号応募総数 77通

※市公式LINEとお友だちの人は、プレゼントボタンから応募できます

お待ちしています！
読者のお便り

郵便はがきにこの面を貼り付けて、宛名面に次のとおり記載の上、郵送ください。

宛先
郵便番号 885-8555
都城市役所秘書広報課 行
※住所の記載は不要

送付者情報

①氏名、②フリガナ、
③ペンネームまたはイニシャル、
④郵便番号、⑤住所、⑥電話番号

点線に沿ってお切りください

